



NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 田中、中原

(電話) 06-6949-6435

令和8年7月1日

内航船員の確保・育成対策

広陵町立真美ヶ丘第一小学校にて出前講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされております。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、近畿内航船員対策協議会と連携して、若年船員の確保に向けて各種事業を実施しています。

今般、“広陵町立真美ヶ丘第一小学校”において、出前講座を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日： 令和8年6月22日（月）

対象者： 広陵町立真美ヶ丘第一小学校（5年生 68名）

講師： 近畿内航船員対策協議会 白石 紗苗 氏

講義内容： 海運の重要性と船員の仕事について

配布パンフレット等： 「船の仕事ってなに？」（日本内航海運組合総連合会）

「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）



「C to Sea プロジェクト」
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！

海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

広陵町立真美ヶ丘第一小学校で出前講座を実施しました！

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：林 一男 田渕海運(株)取締役）では、内航の若年船員不足に対する施策の一つとして、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子ども達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢として捉えてもらうことなどを目的に「出前講座」を実施しています。

今般、令和8年6月22日（月）、広陵町立真美ヶ丘第一小学校において、「海運の重要性と船員の仕事について」をテーマとした出前講座を実施し、5年生68名が参加しました。

当日は、近畿内航船員対策協議会の構成員である白石海運（株）の白石代表取締役専務を講師として、日頃、船員に接する機会が少ない児童に、「海運」がなぜ重要か、「船員」はどのような仕事をしているかについて、講師手作りのパネルや、船の形をしたブロック玩具を用いて、わかりやすく説明を行いました。



講座では、子ども達が積極的に参加できるように、「バナナ専用船の他に何の専用船があるか」「日本の輸入で上位のものは何があるか」「海賊の撃退方法は何か」等、クイズを交えながら行われ、出題のたび子ども達から口々に回答があり、賑やかに講座が進んでいきました。

特に「なぜ重い船が浮くのか」というクイズには、船の形をしたブロック玩具と文鎮を用いて、水槽に浮かべる実験を通して子ども達の興味を引きつける工夫もされていました。中には真剣なまなざしで話を聞きながら、たくさんメモをとっている子ども達の姿も多くありました。



海運は飛行機等、他の輸送手段と比較して、大量に貨物を輸送できるため商品の価格が抑えられることを、子ども達にとって身近なバナナやポテトチップスが手頃な価格で購入できることを例に挙げて説明しました。

船員の仕事については、船を操縦する航海士、エンジン等の整備をする機関士、船員の食事を作る司厨長がいることを紹介しました。また船上から撮影されたきれいな景色の写真を紹介し、海域によってはイルカを見かけることもあると船で働く醍醐味として講師の経験を話しました。

講師から、「海に囲まれた日本は船に非常に支えられている。将来の選択肢に「船員」を加えてほしい。」「身の回りのものがどんなものからできているか、作るためにどんな人たちが関わっているか、想像しながら触れてほしい。」とメッセージを送りました。

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会では、出前講座が児童の職業観の形成につながることを期待するとともに、将来の職業選択にあたり「船員」の仕事が選択肢の一つとなるよう、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を引き続き積極的に行いたいと考えています。
(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)